

生徒の電話使用および取り帰りについて

生徒指導部

3月23日(木)

先日、先生方の話しの中で「生徒の自立する力をつけていく必要があるのではないか」との意見があり、中でも保護者送迎の多さや生徒の電話使用および取り帰りについて話に上がりました。そこで生徒指導部から以下のことを提案させていただきます。

1. 生徒の電話使用について

☆**原則として、生徒の保護者への私用電話は禁止する。**

・学校の電話は公共のものであり、税金で賄われている。私用に使うことは禁止する。

2. 生徒の物の取り帰りについて

☆**授業がおこなわれている時間中に学習に必要なものを家に取りに帰ることは安全面からも禁止する（登校したら帰らない）。また、生徒が家の人に電話をし、持ってきてももらうことも自立性を養う点から禁止する。どうしても必要な場合は、担任、または教科担任が連絡する。**

※ただし、提出すべき課題等をやっているけれども家に忘れたとする場合は、提出期限を守らせるという点から放課後に取りに帰らせることは可とする。その際には交通事故に十分気をつけさせる。

3. 生徒の送迎について

☆**外平を除く地域は通学距離から考えても送迎の必要はなく、自立性を養う点からも送迎をしないものとする。**

※けがや病気をしているときや特別の場合を除く

※ 高校へ進学した場合、ほぼ100%の生徒が海を渡らなければなりません。保護者の方も簡単に持つて行くことができません。寮などに入ればなおさらで、多大な迷惑をかけることとなります。親元から高校等へ通える地域とは異なり、御所浦中の生徒は中学校のうちに付けておかなければいけない力となります。（北地区の生徒は現在でも取りに帰ることはできないため、不公平が生じています。その分卒業後の力を身に付けて行っていますが…）

・生徒の中学卒業後に必要な力、自立に必要な力として

苦境にも負けない力・自分の力で学校に行く力

備える力（天気予報などを見て午後からの雨に備えて朝から準備するなど）

予測する力（雨で靴下などがぬれるだろうからもう一足靴下を持っていこうと考えるなど）

対処する力（雨などに濡れても風邪をひかないように対処する、雨などで滑りやすい路面では自転車の運転に気をつけるなど）

など

現在、「親に送ってもらうこと（甘えること）」を生徒たちは恥ずかしいと思っていないように感じられます。感謝の心も少ないように見受けられます。生徒は当然のこととして考えている傾向にあるようです。甘い認識が常識のように感じている生徒が増えてきています。また、送迎の車が多すぎて、生徒の事故の危険を感じときもあります。そこで、学校には「自分のために自分の足で通うもの」との考えをもう一度再確認したいと思います。